

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



2面

パールライスブランド
50周年記念式典
(米穀部)

4-5面

特集「やさいの日」に
あわせフェアやイベント

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!

パールライスブランド50周年記念式典

100年後も信頼される精米ブランドを目指して

米穀部



式典には全国のJAグループ米穀卸代表者が集った



パールライスロゴ

今後全農はJAグループ米穀卸とともに安心・安心な商品づくりに取り組んでいきます。

式典の開会に当たり高尾雅之常務理事は「精米販売を取り巻く環境は厳しさを増していますが、パールライスが100年後も生産者・消費者の皆さまから支持されるよう協同の精神で前進していきたい」とあいさつしました。

式典には全国のJAグループ米穀卸代表者が出席。50年の歩みを振り返った他、30年前のパールライスのテレビCMに出演していた歌手の金井克子さんからのビデオメッセージなども披露され、今後の需要拡大に向けて思いを新たにしました。

パールライスブランドは、1973年にJAグループの精米の統一ブランドとして誕生し、関係者の尽力と取引先などの協力により50周年を迎えることができました。

JAグループの精米の統一ブランド「パールライス」は今年で50周年を迎え、8月18日に東京都内のホテルで記念式典を開催しました。

News!

全日本クラブ野球選手権大会を後援

優勝チームへ新潟県産米「新之助」を贈呈

新潟県本部



優勝チームへ副賞の米俵を贈呈



優勝したシヨウワコーポレーション

新潟県本部は9月2〜4日、県内で開催された第47回全日本クラブ野球選手権大会を後援し、優勝したシヨウワコーポレーション(岡山)へ新潟県産米「新之助」を贈呈しました。

全国9地区の予選を勝ち抜いた16チームが新潟に集結し、社会人野球のクラブチーム日本一をかけて、トーナメント方式による熱戦を繰り広げました。野球と仕事、家庭との両立に励む選手たちの頑張る姿、一球一打が印象的な大会となりました。3日間行った試合の結果、見事、シヨウワコーポレーションが栄冠を手にしました。

優勝チームへの副賞として新潟県産米「新之助」150kgを贈呈した他、ホームランを打った選手にホームラン賞として「コシヒカリ」5kgを贈り健闘をたたえました。

また、来場者への精米販売や会場内外での広告物の掲出を行い、県産農畜産物をPRしました。

大会2日目準決勝では、新潟県本部の小林裕之副本部長による始球式が行われ、見事な投球で会場を沸かせました。



「野菜がおいしいラーメン 旨コク塩味」を発売

国産小麦・野菜の消費拡大へ「マルちゃん」と「ニッポンエール」のコラボ商品

営業開発部

野菜がおいしいラーメン旨コク塩味2人前



全農は、東洋水産㈱と「野菜がおいしいラーメン 旨コク塩味」を共同開発しました。全国の量販店などで9月1日から販売しています。

「野菜をおいしく食べる」をコンセプトとした2食入りのラーメンで、麺には北海道産小麦粉を100%使用しています。湯切り不要の麺を採用しており、野菜を炒め、麺をゆで、スープを溶かす調理工程をフライパ

ン一つでできます。もちもち感と滑らかさのある麺に、シヨウガと黒コシヨウを利かせた後引く味わいの白湯スープがマッチします。野菜は、ラードをベースに鶏のうまみとニンニクの香りを利かせた特製調味料で炒めることで、素材のうまみが一層引き立ちます。

東洋水産の商品ブランドである「マルちゃん」と「ニッポンエール」のコラボ商品を発売することで、市場の活性化とともに国産小麦と国産野菜の消費拡大を図ります。今後全農は、東洋水産と連携して国産農畜産物を使用した魅力的な商品の共同開発を進めていきます。



「ミスあきたこまち」7人に委嘱状

秋田米の魅力と生産者の思いを全国でPR

秋田県本部

秋田県本部は2023年度「ミスあきたこまち」を決定し、8月23日に秋田市内で委嘱状交付式を行いました。「ミスあきたこまち」に選ばれた7人は、生産者の思いを消費地に届け、「美人を育てる秋田米」をPRします。

交付式では、県本部運営委員会の小松忠彦会長が市女笠と平安時代の旅装束姿の「ミスあきたこまち」7人に委嘱状と記念品を手渡しました。小松会長は「一人一人が秋田の代表として秋田と消費地を結ぶ懸け橋となつて活躍することを期待

している」と激励しました。7人を代表して佐々木愛香さんは「歴代の『ミスあきたこまち』の先輩の活躍を引き継ぎ、秋田米の魅力と生産者の思いを全国の消費者へお届けします」と決意表明しました。

任期は9月1日からの1年間。全国各地で開催される秋田米の販促キャンペーンに参加し、秋田米をPRします。



「ミスあきたこまち」を委嘱された7人



これから1年間の活躍について決意表明

せフェアイベント



消費推進活動を繰り広げました。各地の取り組みを紹介します。

山梨県本部

「ヴァンフォーレ甲府」ホーム戦でPR 農産物直売所で価格転嫁の理解をチラシで呼びかけ

山梨県本部は8月19日、明治安田生命J2リーグ「ヴァンフォーレ甲府」のホーム戦ハーフタイムの抽選会に、県産野菜の詰め合わせ10人分を提供しました。取り組みは、県や県中央会・山梨県農畜産物販売強化対策協議会と連携し「野菜の日キャンペーン」の一環として実施しました。

キャンペーンは安全・安心な農畜産物を供給する農業者とJAの役割について理解醸成を図るとともに、県産農畜産物の消費拡大を目的に行いました。

8月24日は県本部が運営する農産物直売所「たべるJA(じゃ)んやまなし」で価格転嫁への理解を呼びかけるチラシの配布や野菜に関するアンケートを行い、回答者にはエコープ商品のドレッシングなどをプレゼントしました。



大型オーロラビジョンを使い県産野菜のPRを実施

野菜のアンケート回答者を対象にエコープ商品のドレッシングなどをプレゼント



広島県本部

耕畜連携・資源循環「3-R」をPR とれたて元気市広島店で4周年記念イベント

広島県本部は8月31日、耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」の4周年を記念し、とれたて元気市広島店で記念イベントを開催しました。

「3-R」に関するアンケートに答えた方の中から抽選で「3-R」商品などをプレゼントしました。「3-R」循環野菜のミニトマト箸つかみチャレンジでは、皿に移すことができたミニトマトを参加者にプレゼントしました。イベントに参加した50代女性は「今後は、3-Rの取り組みを意識して購入したい」と話しました。

また、8月31日～9月30日の期間は、JAの直売所や生協ひろしまなどの「3-R」販売店舗でクロスワードキャンペーンを開催し、店舗で「3-R」商品の認知拡大を目指します。



イベントではガラポン抽選会も実施

「3-R」と「循環野菜」についてはこちらから



園芸部

直営飲食店舗で野菜増量キャンペーン 毎日の食事で小鉢もう一皿分の野菜を食べよう

園芸部はフードマーケット事業部、くらし支援部と連携し、全農の直営飲食店舗4店舗で、野菜増量キャンペーンを実施しました。

厚生労働省は1日に野菜350g以上食べることを推奨していますが、成人の1日の野菜摂取量は平均280g程度。そこで不足している70gの半量、35g分の「キャベツの甘酢漬け」を、定食を注文した方に提供しました。群馬県産キャベツをエコープマーク品の「簡単!便利!ほめられ酢」で漬け込

むシンプルな1品で、作り方は店内POPでも紹介。JA全農広報部noteでは1日の野菜摂取量アップを目指すレポートも展開しました。

さらに各県自慢の野菜セットを楽しんでもらおうと、JAタウンでは「お客さま送料負担0円キャンペーン」を実施しました。

JA全農広報部
noteはこちら



キャベツ生食35g分の甘酢漬けを提供するとともに店内POPでも紹介(みのる食堂銀座三越)



「やさいの日」にあわ

8月31日の「やさいの日」を中心に、全農は8、9月に野菜の

青森県本部

県内のスーパーでJAフェア 体験型アトラクションで県産野菜をPR

青森県本部は8月30、31日に県内のスーパーマーケットで「やさいの日」JAフェアを開催し、「やさいの日」の認知度向上や地産地消を呼びかけました。

店頭にはのぼりやポスター、パネルを掲示し旬の県産野菜をそろえました。ハウス食品(株)とのコラボキャンペーンで考案された県産夏野菜を使用したオリジナルカレー「青森のうまいもの 彩り野菜のキーマカレー」の試食も実施。このカレーはニンニク、トマト、ナガイモ、ピーマン、タマネギといった県産野菜に、牛豚ひき肉を合わせた逸品です。

19日には「あおもりやさいフェスティバル」を開催。野菜を使ったゲームなど体験型のアトラクションを設置し、親子連れでにぎわいました。



スーパー店頭には旬の県産野菜が並びました

宮城県本部

グリルみので「仙台えだまめフェア」 期間限定メニューで宮城県産青果物をPR

宮城県本部は8月26～31日、「グリルみのも 仙台エスパル店」と連携し「仙台えだまめフェア」を行い、県産青果物のPRと消費促進に取り組みました。

フェア期間中は、特別メニューとして「仙台えだまめの焼き浅漬け～ごま風味～」を販売した他、平日ランチ限定のサラダビュッフェでは「仙台えだまめの冷製煮びたし」を提供しました。

またJAタウン公式ツイッター(現X)では、JAタウン「タウンショップみやぎ」で販売中の「ずんだ餅セット」プレゼントキャンペーンを実施し、県内だけでなく、全国の消費者に向けて仙台えだまめを周知しました。



平日ランチ限定のサラダビュッフェで提供された「仙台えだまめの冷製煮びたし」



特別メニューの「仙台えだまめの焼き浅漬け～ごま風味～」

福島県本部

ふくしまFMで“まるごと1日野菜の日” 直売所で旬の野菜ボックスを831円で販売

福島県本部はJA福島ファーマーズマーケット連絡協議会と連携し毎年8月31日の野菜の日に、県産野菜の消費拡大の取り組みを実施しています。県本部直営の農産物直売所愛情館では生産者の思いが詰まった旬の野菜ボックスを「や・さ・い」のゴロに合わせて、831円で販売しました。

販売開始前から長蛇の列ができ、準備した100箱はあっという間に完売しました。また、地元ラジオ局のふくしまFMでは「JA全農福島プレゼンツ!まるごと1日野菜の日+福島の農畜

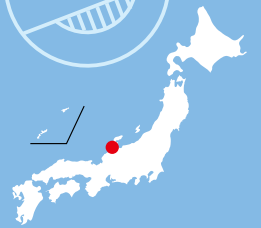


メディアに取り上げられるほどにぎわった野菜ボックスの販売

ラジオ番組には渡部俊男県本部長も出演し、県産農畜産物をPR



産物」と題し1日にわたって、県産農畜産物を県民リスナーへPRしました。



世界一高価なブドウ「ルビーロマン」、大きく甘い梨「加賀しずく」

県オリジナル品種のPRに「一丸」

石川県本部は生産者、県、JAと連携し、県オリジナル品種のブランド力向上に取り組んでいます。夏から秋にかけて、ブドウの「ルビーロマン」と梨の「加賀しずく」が旬を迎えます。「ルビーロマン」は14年、「加賀しずく」は16年の歳月をかけて県が育成しました。

厳しい出荷基準、管理も徹底

「ルビーロマン」は今年で市場デビュー



「ルビーロマン」



「加賀しずく」

16年目となり、世界一高価なブドウとして、国内外で知名度が高くなっています。今年の初競りでは過去最高値の1房160万円の値がつき、台湾の富裕層向けスーパーで販売されました。

「加賀しずく」は今年で市場デビュー7年目を迎え、生産量は順調に増加。今年の生産量は60トを目指しています。今年の初競りでは過去最高値の1箱6玉17万円の値がつき、県内での知名度も高くなっています。

「ルビーロマン」と「加賀しずく」は共に厳しい出荷基準と関係者らの徹底した栽培・出荷・流通管理によって、その価値を高め、守っています。

県内外でトップセールス

馳浩県知事と生産者らによる試食



試食会で「加賀しずく」をPRする馳知事

イベントを8月24日、金沢駅で実施しました。試食イベントは4年ぶりで、「加賀しずく」の生産量が伸び、今年から本格的に首都圏での出荷が始まったことを受け、初めて「ルビーロマン」と合同で行いました。「ルビーロマン」を食べた人からは「大きい。果汁がすごい(多い)」、「加賀しずく」を食べた人からは「初めて食べた。甘い」と喜んでいただき、大変好評でした。また、地元の方や観光客がお土産などで購入する姿も見られました。

8月31日には東京都中央卸売市場大田市場で馳知事、西沢耕一運営委



東京・大田市場でのトップセールス

員会会長、末政満県本部長によるトップセールスを行い、「ルビーロマン」と「加賀しずく」をPRしました。市場関係者らが今年の出来を確かめて、首都圏での注目度の高さとさらなる認知拡大に期待が高まりました。今後も関係各所と連携を強化し、県内外での石川県オリジナル品種の認知度向上と地位確立に向けて取り組んでいきます。

管理システムを有効活用

産地評価の底上げに貢献

三重県のJA鈴鹿は農産物の出荷量を予測および把握するため、全農が提供する営農管理システム「ZIGIS」を活用して産地に求められる「定時・定

量・定品質」出荷を実現し、販売単価を2〜4割向上させることに成功しました。

植木・茶農家の複合化 加工野菜部会と連携

JAでは植木・茶農家の所得向上や安定経営を支える品目として、加工用のハ

クサイやカボチャとの複合経営を提案してきました。2013年には「加工野菜部会」を立ち上げ、現在、在籍者は約50人となりました。JAと部会は連携しながら、販売先から求められる数量に応じた計画的な出荷を行っています。求められる数量に対して「いつ・

誰か・どれだけ」出荷するかを把握し、JAと部会員が共有。「ZIGIS」を活用することで品目・品種や定植日などの情報を電子上の地図と結び付けて管理しています。また、圃場ごとの品種や株数、1玉当たりの予測重量を記

録することで在庫状況の「見える化」を実現。各農家の出荷能力を把握することにもつながり、急な発注にも柔軟に対応できる環境を整備することができました。

ハクサイ、カボチャ 計画的出荷で単価向上

JAと部会が一丸となって進めてきた産地づくりは、きめ細かな生産・出荷管理が契約産地としての信頼へとつながりました。計画的な出荷により、長期的な貯蔵が招く品質劣化のリスクも抑えることができました。こうした取り組みにより、産地の評価は高まり、部会を立ち上げた当初から比較すると1割、カボチャで4割向上し



在庫状況の「見える化」により柔軟な出荷対応が可能に

量に対して「いつ・誰か・どれだけ」出荷するかを把握し、JAと部会員が共有。「ZIGIS」を活用することで品目・品種や定植日などの情報を電子上の地図と結び付けて管理しています。また、圃場ごとの品種や株数、1玉当たりの予測重量を記

ました。JAの営農指導員は「推し進めてきた産地づくりは一定の評価を得て、結果を残すことができました。継続して販売先からの信頼に添えることで、これまで以上の評価を得られるようにまい進していきたい」と意気込みます。



計画的な出荷が販売先の評価を得ている

加工用のハクサイ・カボチャの生産が盛ん

JA 鈴鹿 (三重県)



概要	2023年3月31日現在
正組合員数	1万2782人
准組合員数	1万2615人
職員数	424人
販売品取扱高	63億1千万円
購買品取扱高	52億9千万円
貯金残高	4455億3千万円
長期共済保有高	5991億4千万円
主な農産物	米、茶、肉牛、植木、小麦、大豆、ハクサイ、カボチャ、ホウレンソウ

「2023愛媛みかん大使」任命式

65代目4人 11月からイベントやメディア出演でPR



愛媛県本部は8月21日、松山市南堀端町で「2023愛媛みかん大使」の任命式を開催しました。大使は愛媛みかん、伊予柑などの県産かんきつを全国にPRしていきます。【愛媛県本部】

「2023愛媛みかん大使」に任命されたのは、野口杏さん、谷口ひなのさん、小島碧子さん、伊藤みずほさんの4人。任命式では、県本部運営委員会の吉見一弥会長が4人に任命状を手渡し、前任の大使から活動の際に身

に着けるたすきが引き継がれました。

4人は65代目として、温州ミカンの本格出荷が始まる11月から各種イベントやメディアへの出演などを通じて、来年8月までの1年間、愛媛のかんきつをPRします。

23愛媛みかん大使任



愛媛みかん大使の(左から)伊藤さん、小島さん、谷口さん、野口さん

ルミネとコラボしオンライン牧場体験

北海道の生産者と親子17組がリアルタイムで交流

全農は協同乳業(株)と連携し、酪農と牛乳・乳製品の魅力を発信する「酪農の輪 プロジェクト」の一環として「オンライン牧場体験withルミネアグリマルシェ」を8月23日に開催しました。参加した親子17組はリアルタイムで生産者と交流し、酪農への理解を深めました。【酪農部】

5回目となる今回のオンライン牧場体験は、商業施設「ルミネ」の農業プロジェクト「ルミネアグリマルシェ」とのコラボとして開催しました。北海道の(株)山岸牧場(JA士幌町管内)と中継しながら、事前に参加者の自宅へ送った牛の餌や牛ふん堆肥などの教材を用いて搾乳や給餌、ふん

尿処理について説明。オンラインでも牧場の“匂い”が感じられる体験となりました。

参加者からは酪農や牛乳に関する質問が上がるとともに、「牛乳は酪農家さんが丁寧に牛さんを育てているからおいしく飲めるということが分かりました」などの感想が寄せられました。



中継先の山岸牧場の山岸さん親子。開催日に生まれた牛は「ルミネちゃん」と名付けられた



積極的にクイズに挑戦する参加者

JA全農の産地直送通販サイト

JAタウン ショップ紹介

JAぎふ 清流ぎふの恵み

長良川上流からの^{ひよく}肥沃な堆積土で育てられる岐阜地域のエダマメは、「岐阜えだまめ」のブランド名で親しまれています。生産から出荷に至るまで数多くの協定事項を厳守して栽培、収穫されたエダマメは、生産者が1次・2次選別を行い、選果場ではJAぎふ職員らが3次選別することで品質の確保が図られています。

「岐阜えだまめ」は大粒で実がしっかり詰まってボリューム満点。はじけるような実の濃厚なこくと甘さが持ち味です。



【贈答用】岐阜えだまめ 180g×8袋
……2890円(税込み)

※9月18日より数量限定で販売します。

▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

ご注文はこちらから